

序段

ホシモノのおカネの作り方

極意

ニセガネを作らない

極意

ホシモノのおカネに似せよつとしない

ホシモノのおカネに似せる

=

逆説

第一段

ニセガネについて

佐土原藩のニセの二分判金の作り方（具体例）

ニセガネとはホシモノの金銀でないものが、あたかもホシモノの金銀に見えるように細工されたものである（抽象）

第二段

ホシモノのおカネについて

預かり手形が江戸時代の商取引の九十九%に使われていた。（具体例）

ホシモノのおカネの「代わり」が、ホシモノのおカネになってしまう。（抽象）

=

逆説

第三段

ニセガネ作り = ホシモノのおカネをホシモノたらしめてるはずの金銀に「似せ」たものを作る。

形而上学の哀れな犠牲者

「ホシモノの形而上学」 = ホシモノのおカネがホシモノであるのはホシモノの金銀からできている。



ホシモノのおカネの変遷

①物々交換。

- ② 金銀 = 装身具や祭礼器具に換えられる。
- ③ 金貨銀貨 = 刻印で内容量を表示した金銀の塊。
- ④ 預かり手形 = 金貨銀貨の引換証書。
- ⑤ 銀行券 = 紙幣。金貨銀貨と交換できない。
- ⑥ 小切手
- ⑦ クレジットカード
- ⑧ 電子マネー

↳

ホシモノのおカネの単なる「代わり」が、ホシモノのおカネになってしまった = 逆説
支払いの手段 ホシモノのおカネと全く似ていない。

持ち運びや保管に便利である。

大きな資力と厳重な管理能力に保証されている = 信用